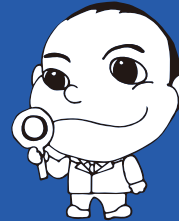


前田 けんいちろう



千葉市議会令和7年第3回定例会が9月4日から10月2日まで行われ、私は自由民主党千葉市議会議員団の幹事長として代表質問をさせていただきました。



市政運営の基本姿勢についての代表質問で登壇

令和7年度の収支見通しについて

次に、令和7年度の収支見通しについてお伺いいたします。先に発表された月例経済報告では、我が国の経済は緩やかな回復基調にある一方で、米国の関税措置の影響や物価上昇の継続による個人消費への影響など、下振れリスクも指摘されており、政府には機動的な経済財政運営が求められているところであります。一方、本市において、令和7年度は、少子超高齢社会への対応や、政令市移行前後に整備された市有施設の更新、さらには物価高騰の影響などにより、予断を許さない収支状況からのスタートとなりました。また、物価高騰の長期化に伴い、市民生活や事業活動への影響が続く中、機動的な対策が求められており、本市の財政状況は一層厳しさを増しているものと受け止めております。そこで伺いいたします。現段階において、今年度の収支見通しをどのように捉えているのか、お聞かせください。

市長：令和7年度の収支見通しについてですが、春闘においては、2年連続で5%を上回る賃上げ率が実現されているほか、国税収入も6年度決算で75兆円に達し、5年連続で過去最高を更新するなど明るい兆しがみられる一方で、米国の関税措置や物価上昇の継続に伴う個人消費への影響により、我が国経済の下振れも懸念されているところです。こうした中、本市においては、企業立地の実績が3年連続で過去最多を更新するなど、税源涵養に向けた取組みを進めており、市税収入の増収が見込まれる状況ではありますが、引き続き、経済情勢による影響を注視する必要があるものと認識しております。また、人件費や扶助費の増大、物価高騰による市民生活・事業活動のニーズへの対応、市有施設の老朽化への対応などに更なる財政需要が見込まれることに加え、当初予算において財政調整基金の多額の取崩しを計上していることから、7年度の財政運営も厳しい状況であるものと認識しております。この認識の下、収支状況を的確に見極めるとともに、物価高騰に係る国等の動向などを注視しつつ、引き続き、自主財源の確保に努めるとともに、歳出において更なる効率化を図りながら、各種施策を着実に推進して参ります。

第2次実施計画について

第2次実施計画について伺いいたします。千葉市基本計画に基づく第1次実施計画が、今年度末で計画期間を終了することに伴い、現在、次期の計画となる第2次実施計画の策定を進めていることと認識しております。次期計画の計画期間においては、人口減少・少子高齢化社会への対応のほか、社会保障経費の増加や、市有施設の更新時期の到来、物価高・金利上昇などにより、これまで以上に厳しい財政運営を迫られることが想定されます。そのため、市長が先の議会での所信表明で述べられておりました、「地域をまもり、未来を創る」施策を明確に位置付けていくとともに、限られた人的リソースや財源の中で、さらなる事業の選択と集中が不可欠な状況であり、大胆な事業の見直しを行っていくことも併せて必要となるものと認識しております。そこで伺いいたします。次期実施計画の策定に当たっての基本的な考え方や方向性について、お聞かせください。

市長：第2次実施計画についてお答えします。基本的な考え方・方向性についてですが、基本計画のまちづくりを進める第2期目の実施計画として、第1次実施計画の進捗を踏まえながら、基本計画で掲げる「みんなが輝く都市と自然が織りなす千葉市」の実現に向けた着実なステップとなる計画とする必要があると考えております。本市では、これまでの都市政策が実を結び、昨年1年間で約5,000人の人口増を実現し、現在、98万7,000人を超える都市に成長していますが、我が国全体の少子・高齢化、人口減少社会の一層の進展にも伴い、本市においても、出生数の減少や死亡者数の増加により、自然減は年々拡大しており、次期実施計画期間において、本市の人口が減少局面を迎えることも想定されます。そのため、地域住民の減少に伴う財・サービスの需要の縮小や地域産業を支える働き手の慢性的不足といった、直面する現実の変化に目を背けず、これを前提とした地域の担い手の育成・確保や、日常生活に不可欠なサービス基盤の維持・確保などの課題に的確に対応していく必要があると考えております。そして、人口規模が縮小しても、地域の、都市の社会経済の活力を維持し、様々な変化に適応できるまちであり続けられるよう、次の10年、100年先の千葉市に向

市政運営の基本姿勢について

まず、令和6年度決算について伺いいたします。令和6年度の予算は、少子超高齢社会の進展への対応に加え、公共施設の老朽化対策や、長引く物価高騰の影響が見込まれるなど、厳しいものでありました。そのような中であって、令和6年度の一般会計決算では、実質収支として約30億円の黒字を確保したものの、病院事業における累積欠損金が依然として多額に上るなど、財政運営にはいまだ課題もあるものと認識しております。そこで伺いいたします。令和6年度決算についてどのように評価しているのか、お聞かせください。

市長：自由民主党千葉市議会議員団を代表されまして、前田健一郎議員より市政全般にわたる御質問をいただきましたので、頂次お答えいたします。はじめに、令和6年度決算と7年度の収支見通しについてお答えします。まず、6年度決算の評価についてですが、6年度は、歳入において市税や地方消費税交付金が予算に比べ増収となったほか、歳出において、効率的な予算執行に努めたことなどから、一般会計の実質収支は、29億8,200万円の黒字を確保したところであります。予算を重点配分した事業については、子ども・教育の分野では、子ども医療費助成について、高校生年代までを対象に加えるなどの拡充を行うとともに、学校トイレ改修について、洋式化や床のドライ化などを全市立学校で完了するなど、子育てしやすい環境整備や学校施設の改善を進めて参りました。また、健康・福祉の分野では、引き続き、特別養護老人ホームの整備を進めるとともに、フレイルが疑われる高齢者に保健指導と介護予防を一体的に行う医療専門職を全区に配置するなど、高齢者が健康で安心して暮らせる環境整備を促進いたしました。さらに、環境・自然の分野では、公共施設への太陽光発電設備の設置に加え、清掃工場の余剰電力を市有施設で活用するための設計等を実施するなど、脱炭素の取組みを推進したほか、都市・交通の分野では、生活に不可欠な既存バス路線の維持支援や、道路ネットワークの形成を促進し、市民生活の基盤となる都市機能の維持・向上に努めるなど、概ね見込んでいた成果を上げることができたものと認識しております。このほか、財政の健全性の観点では、市債残高や基金借入残高の削減に加え、実質公債費比率や将来負担比率の低減など参中期財政運営方針を踏まえ、財政の健全性の維持に努めた決算であると考えております。しかしながら、財政調整基金の取崩しが多額となっているほか、病院事業の累積欠損金についても増加していることなど、厳しい財政状況であることから、引き続き、財政の健全性に配慮した取組みを推進して参ります。

機動的な財政出動を行うことと、将来世代への負担に十分な配慮を期待

(表面より)

け、将来への投資となる、都市基盤の充実・強化に関する事業も位置付けていく必要があると考えております。また併せて、政令市移行時に整備した公共施設の老朽化対策など、現時点で避けることのできない課題に対し、施設の集約化やインフラの長寿命化など、あらゆる工夫を凝らしながら確実に取り組んでいく必要があると考えております。今後も、行財政運営の持続性確保に向け、事業や施策の実施にあたっては、「継続」前提ではなく、必要な見直しや創意工夫を凝らすなど、行財政改革に取り組むと共に、データに基づく政策立案や、緊急性、必要性、未来への投資効果などを含めた総合的な観点から、「選択と集中」による事業の厳選を行い、新たな時代を切り開く未来志向のまちづくりを推進するための計画づくりを進めて参ります。

千葉開府900年記念事業について

次に、千葉開府900年記念事業についてお伺いいたします。本年第2回定例会において、千葉開府900年の記念事業が目指すビジョンについてお伺いしたところ、「千葉開府900年という歴史的な節目に、市民の皆様と共に本市の過去を振り返ることから現在を見つめ直し、未来への展望を描いていくことが重要であり、「歴史の継承と市民意識の醸成」及び「未来志向の人づくり・文化づくり・まちづくり」の機会となるよう取り組む」と答弁をいただきました。さらに「千葉開府900年を契機として、市民一人ひとりがこれまでの『まち』の歴史と未来に想いを馳せ、千葉市の未来に向けた新たな一歩を踏み出す契機とするもの」と答弁いただき、会派でもこれに賛同しました。一方、このビジョンに向けて、記念事業を推進するにあたっては、市民や企業・団体など多くの主体が一丸となり官民が連携して取り組みを進めるとともに、市民や企業等が活動するそれぞれの分野において、主体的に新たな取り組みに踏み出すことも肝要であると考えています。そこでお伺いいたします。千葉開府900年記念事業における、市民参加や事業者との連携についてお聞かせください。

市長:千葉開府900年記念事業についてお答えします。市民参加や事業者との連携についてですが、本市が持続可能な「まち」であり続けるためには、市民や企業・団体など様々な活動を行っている皆様が、まちへの誇りと愛着を持つことが非常に重要であり、そのことは広い意味での「まちづくり」であると考えています。来年に迎える千葉開府900年を契機とし、郷土への誇りと愛着の醸成へ向けた基盤づくりを行っていくため、市民や企業・団体等と連携、協働し、実効性のある取り組みを進めて参ります。そのため、令和5年度に市民・経済・大学等による千葉開府900年記念協議会を立ち上げ、各団体の持つ知見を集約し、記念事業に相応しい企画の実施へ向けた取り組みを協働で進めております。また、昨年度には、市民・団体・企業等の取り組みを後押しするためメンバーシップ登録制度と、クラウドファンディング特設サイトの運用を開始。開府900年を契機に、地域に関心をもち、自ら関わり、様々な取り組みを企画実施する市民や企業等との連携を進めているところであります。さらに今年度は、「参加型のアートプロジェクト」として、千葉開府900年記念のシンボル事業として位置付けた「千葉国際芸術祭 2025」を開催、今月19日からの約2か月間の集中展示・発表期間を中心に、市内各所で展開される様々なアートプロジェクトに参加した皆様が、アートを楽しみながら、歴史、文化など本市の地域の魅力を再認識し共有することで、地域の新たなつながりを生み、地域そのものの活力が高まっていくことを目指していくとともに、これを開府900年を記念するレガシーのひとつとして、未来に向けて継承発展させていくことを考えております。今後も、千葉開府900年記念の取り組みを通じ、

市民や企業・団体、様々な方々との連携を一層深めながら、本市が持続可能なまちであり続け、豊かな未来へとつなげていくための記念事業を着実に推進して参ります。

この後も市政について以下の質問をさせていただきます、ご答弁をいただきました。



総合政策行政について

1点目に、基本構想案に対するパブリックコメント手続きの結果について、2点目に、サウンディング型市場調査の結果及びそれを踏まえた今後の取り組みについて、3点目に、今後公募される事業協力者に求める役割と、そこに対する期待について。

開庁時間の変更について

1点目に、現在の開庁時間の変更について検討状況はどうか、2点目に、変更した場合にどのような効果が見込まれるか、3点目に、変更による市民等への影響はどう考えるか。

市税収入について

1点目に、令和6年度決算における市税収入の状況について、2点目に、令和7年度税収見込みについて、3点目に、令和6年度の取組結果について、4点目に、令和7年度の取組について。

アルティーマリー千葉の新アリーナについて

新アリーナ整備に係る進捗状況と今後の取組について。

口腔保健の推進について

1点目に、口腔保健支援センターの取組について、2点目に、歯周病検診の取組について。

子どもルームについて

1点目に、子どもルーム2年連続待機児童ゼロ達成の取組に対する評価について、2点目に今後の課題と取組について。

新清掃工場と周辺整備について

1点目に、新清掃工場の本稼働に向けた状況について、2点目に、周辺整備計画の取組について、3点目に、本稼働後の取組について。

労働力不足に対する支援について

1点目に、市内事業者の労働力不足の状況とこれまでの取組について、2点目に、今後の取組について。

宿泊税について

1点目に、第4回千葉市観光振興検討会議の結果について、2点目に、今後の進め方について。

有害鳥獣対策について

1点目に、現在のイノシシ対策について、2点目に、今後のイノシシ対策について。

競輪事業について

1点目に、本年度下期にレースの開催を休止という決断に至った経緯、具体的な要因や背景について、2点目に、開催再開に向けた方針と対応について。

空き家等対策について

1点目に、空き家等対策の現状と課題について、2点目に、今後の取組について。

広域幹線道路ネットワークについて

1点目に新湾岸道路のルート案について、2点目に新湾岸道路の今後の取組について、3点目に(仮称)検見川・真砂スマートインターチェンジの整備内容と今後の取組について。

マイナ救急について

1点目に、実証事業の概要について、2点目に、見込まれる効果について、3点目に、マイナ保険証がない場合の対応について。

県営水道の料金改定が与える影響について

県営水道の料金が値上げされた場合、市営水道の料金も値上げが必要になるのか。

市立病院の経営について

1点目に、令和6年度の経営状況について2点目に、今後の経営健全化について。

学校施設の環境整備について

1点目に、学校敷地内の危険樹木に関する現状の取組について、2点目に、危険性の高い樹木の判断方法について、3点目に、今後の取組について。

前田健一郎からの意見と要望

神谷市長をはじめ当局より丁寧な御答弁をいただきまして、ありがとうございました。令和6年度の決算では、財政の健全性の維持に努められたものと評価しております。一方で、今後、多くの市有施設が更新時期を迎えることから、市債残高の増加が見込まれるほか、財政調整基金の残高が減少しており、活用可能な財源が限られているなど、依然として、厳しい財政運営が続くものと認識しております。財源等を確保しながら、必要に応じて機動的な財政出動を行うことを期待いたします。また、引き続き、将来世代への負担にも十分配慮しながら、持続的な発展に資する施策については、着実に推進していただくよう期待いたします。神谷市長におかれましては市民のより豊かな暮らしと本市の持続的発展に向けて取り組まれることを大いに期待いたします。

市政に対するご意見をお寄せ下さい! 自由民主党千葉市議会議員団 前田健一郎 TEL043-245-5480

発行:千葉市議会議員 前田健一郎 千葉市若葉区桜木1-29-2-101(事務所移転しました) TEL043-312-1793